

国立民族学博物館研究報告 vol.5-1; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	5
号	1
発行年	1980-03-30
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009254

1980・3 5_巻1_号

国立民族学博物館 研究報告

- ペルー南部における海岸と高地の交流——増田昭三
- 南部ペルーのアンデス西斜面における環境利用——大貫良夫
- 南部ペルーアンデス西斜面の先スペイン文化——藤井龍彦
- 中央アンデス南部高地の環境利用
——ペルー、クスコ県マルカパタの事例より——山本紀夫
- 中央アンデス南部農村の家族、親族とアイユウ
——姻族 (qata/q'aćun) を中心に——佐藤信行
- 中央アンデスの民話とアマゾンの神話——栽培植物・労働・死の起源——友枝啓泰
- Las Relaciones entre las Tierras Altas y la Costa
del Sur del Perú—Fuentes Documentales——PEASE G. Y., Franklin



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

5 卷 1 号

1980年3月

目 次

ペルー南部における海岸と高地の交流	増田 昭三	1
南部ペルーのアンデス西斜面における環境利用	大貫 良夫	44
南部ペルーアンデス西斜面地域の先スペイン文化	藤井 龍彦	83
中央アンデス南部高地の環境利用 ——ペルー、クスコ県マルカパタの事例より——	山本 紀夫	121
中央アンデス南部農村の家族、親族とアイユウ ——姻族 (qata/q'aćun) を中心に——	佐藤 信行	190
中央アンデスの民話とアマゾンの神話 ——栽培植物・労働・死の起源——	友枝 啓泰	240
Las Relaciones entre las Tierras Altas y la Costa del Sur del Perú ——Fuentes documentales——	Franklin PEASE G. Y.	301
彙 報		311
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		313
国立民族学博物館研究報告執筆要領		314

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 5 No. 1

March 1980

MASUDA, Shozo	Interregional Relationships in Southern Peru: Maritime Activities of Highlanders in Three Southern Departments of Arequipa, Moquegua and Tacna 1
ONUKE, Yoshio	Environmental Exploitation of the Western Slope of the Andes of Southern Peru44
FUJII, Tatsuhiko	Prehispanic Cultures of the Western Slope of the Southern Peruvian Andes83
YAMAMOTO, Norio	Environmental Exploitation on the Eastern Slope of the Southern Central Andes: A Case Study of the Agrico-Pastoral Society of Marcapata, Cuzco, Peru 121
SATO, Nobuyuki	Native Concept of <i>Ayllu</i> and <i>qata/q'acun</i> (Siblings-in-law): A Study of Family, Kinship and <i>Ayllu</i> 190
TOMOEDA, Hiroyasu	Central Andean Folktales and Amazonian Myths: The Origin of Cultivated Plants, Labor and Death 240
PEASE G. Y., Franklin	Las Relaciones entre las Tierras Altas y la Costa del Sur del Perú: Fuentes Documentales 301

彙 報 (昭和55年10月～
昭和55年12月)

人事異動

(行政職) (昇任)

11月1日 情報管理施設資料室長 佐藤秀夫
(東京外国語大学庶務課課長補佐)

12月16日 管理部展示課長 安達香代 (文部省学術国際局ユネスコ国際部国際学術課)

(配置換)

11月1日 分子科学研究所総務部人事課長 内田正英 (情報管理施設資料室長)

12月16日 京都大学庶務部国際主幹 村尾康 (管理部展示課長)

(教育職) (採用)

10月1日 助手 伊東一郎

海外における研究・調査・収集活動

氏名	出 発	帰 国	行 先
石毛 直道 助教授 (第5研究部)	54.10.3	54.10.8	香港
松山 利夫 助手 (第1研究部)	54.10.13	54.11.1	大韓民国
君島 久子 教授 (第1研究部)	54.10.20	54.11.10	中華人民共和国
佐々木高明 教授 (第2研究部)	54.10.20	54.11.10	中華人民共和国
藤井 知昭 助教授 (第2研究部)	54.10.20	54.11.10	中華人民共和国
大丸 弘 助教授 (第5研究部)	54.10.20	54.11.10	中華人民共和国
大森 康宏 助手 (第3研究部)	54.10.25	55.1.20	フランス, ドイツ連邦共和国, スペイン, イタリア, スイス, オランダ
吉本 忍 助手 (第2研究部)	54.11.1	54.12.20	インド
ケネス・ラドル 外国人研究員 (第5研究部)	54.11.15	54.11.30	フィリピン, タイ, マレーシア, シンガポール, インドネシア
梅棹 忠夫 (館長)	54.11.16	54.12.6	中華人民共和国
杉村 棟 助教授 (第2研究部)	54.11.17	54.12.15	連合王国, エジプト, シリア
大丸 弘 助教授 (第5研究部)	54.11.23	54.12.17	連合王国, スイス
中山 和芳 助手 (第1研究部)	54.12.1	55.1.10	アメリカ合衆国, アメリカ合衆国信託統治領ミクロネシア
コウ・ヘイスン・チャン 外国人研究員 (第5研究部)	54.12.15	54.12.21	大韓民国
祖父江孝男 教授 (第1研究部)	54.12.18	54.12.23	大韓民国

来館者抄

昭和54年

- 10月1日 柴田 紀男 (天理大学助教授)
 8日 バーバラ・チャールス (スミソニアン研究所)
 11日 Jacques RUFFIÉ (Professeur au Collège de France, Laboratoire d'Anthropologie Physique)
 William TAYLOR (カナダ国立人類学博物館長)
 18日 金 明 會 (韓国国際文化協会会長)
 René PELISSIER (ボルドーブラックアフリカ研究センター)
 23日 Hélène CLAUDOT (Centre National de la Recherche Scientifique,
 26日 丹野 郁 (埼玉大学教授)
 別府 春海 (スタンフォード大学人類学部教授)
 30日 A. JEANNERET (スイス民族学博物館長)
 11月2日 常 書 鴻 (中国・敦煌文物研究所長)
 季 承 仙 (敦煌文物研究所)
 常 沙 娜 (中央工芸美術学院講師)
 8日 Liliana Silvia CANADAS MAEJIA (ホンデュラス大学図書館長)
 10日 Thérèse Pascale BATESTI (フランス人間博物館回教アジア展示

責任者)

12月8日 中日友好学者訪日代表团

- 季 福 徳 (中日友好協会理事)
 施 谷 (中国社会科学院世界政治研究所主要負責任)
 劉 丁 (中国人民大学法律系副教授)
 郭 朋 (中国社会科学院世界宗教研究所仏教研究專家)
 任 繼 聖 (中国社会科学院法学研究所國際法研究室助理研究員)
 金 泰 相 (吉林省社会科学院日本問題研究所助理研究員)
 凌 星 光 (中国社会科学院世界經濟研究所員)
 吳 瑞 鈞 (中日友好協会)
 ツエレンドフ (モンゴル人民共和国駐日大使)
 12日 森 主一 (静岡女子大学教授)
 20日 加藤 富子 (地方自治研究資料センター所長)
 坂田 吉雄 (京都産業大学教授)
 中埜 喜雄 (同 教授)
 川北 靖之 (同 講師)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万国博記念公園
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。

(2) 文献の記載は、著者名、年号、論題(タイトル)、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthro-
pology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The Uni-
versity of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 5 卷 1 号

審査委員

梅 棹 忠 夫
中 根 千 枝

祖 父 江 孝 男

編集委員

江 口 一 久
竹 村 卓 二
友 枝 啓 泰
藤 井 龍 彦

加 藤 九 祚 (編集委員長)

垂 水 稔
中 村 俊 龜 智

昭和 55 年 3 月 22 日 印 刷
昭和 55 年 3 月 30 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 5 卷 1 号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市山田小川 41-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol. 5 no. 1
March 1980

- | | |
|-----------------------|--|
| MASUDA, Shozo | Interregional Relationships in Southern Peru: Maritime Activities of Highlanders in Three Southern Departments of Arequipa, Moquegua and Tacna |
| ONUKE, Yoshio | Environmental Exploitation of the Western Slope of the Andes of Southern Peru |
| FUJII, Tatsuhiko | Prehispanic Cultures of the Western Slope of the Southern Peruvian Andes |
| YAMAMOTO, Norio | Environmental Exploitation on the Eastern Slope of the Southern Central Andes: A Case Study of the Agrico-Pastoral Society of Marcapata, Cuzco, Peru |
| SATO, Nobuyuki | Native Concept of <i>Ayllu</i> and <i>qata/q' aćun</i> (Siblings-in-law): A Study of Family, Kinship and <i>Ayllu</i> |
| TOMOEDA, Hiroyasu | Central Andean Folktales and Amazonian Myths: The Origin of Cultivated Plants, Labor and Death |
| PEASE G. Y., Franklin | Las Relaciones entre las Tierras Altas y la Costa del Sur del Perú: Fuentes Documentales |



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X